



JAMS NEWS

日本経営システム学会

<http://www.jams-web.jp/>

日本経営システム学会 第68回全国研究発表大会のご案内

会員の皆様には、時下益々ご清祥こととお慶び申し上げます。さて、日本経営システム学会第68回全国研究発表大会が2022年5月21日(土)、22日(日)にZOOMによるオンライン会議形式にて開催されます。多くの会員の皆さまのご参加およびご発表を心よりお待ちしております。

記

開催日：2022年5月21日(土)、22日(日)

主催校：千葉商科大学 市川キャンパス (ZOOMによるオンライン会議形式)
〒272-8512 千葉県市川市国府台1-3-1

連絡先：実行委員長 商経学部 櫻井 聡

実行副委員長 千葉商科大学 仲野 友樹 E-mail: nakano@cuc.ac.jp

主催：日本経営システム学会

統一論題：「SDGsと経営システム」

基調講演：千葉商科大学 副学長・サービス創造学部教授 今井 重男 氏

参加費：大会参加費は発表筆頭者のみ徴収します(会員5,000円、学生会員3,000円)。予稿集は発表筆頭者には無償配布、その他希望者には有償(3,000円)で郵送します。

発表申込：発表申し込みは、学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/> の発表申込フォームから申し込みいただくか、ダウンロードした申込書に必要事項を記入の上、メール添付で学会事務局 E-Mail: keieisys@jams-web.jp へ、4月6日(水)までに送信してください。本JAMS NEWSの発表申込書を学会事務局宛 Fax.03-3371-5185 にご送付いただいても構いません。

原稿締切：pdf および word 入稿または郵送にて、4月23日(土)まで(厳守)、学会事務局宛または第68回大会発表原稿入稿フォームからご投稿ください。

■学生研究発表優秀賞について

当学会では、学生セッションの研究発表を審査して優秀な発表には「学生研究発表優秀賞」を授与しています。学生であれば、正会員・学生会員を問わず、学生セッションの研究発表は審査の対象となります。ただし、下記の点にご留意下さい。

- ・学生セッションの発表は、正会員との連名とし、ファースト・オーサーは学生とします。
- ・学生セッションでの単独発表は、正会員の学生に限ります。
- ・学生研究発表優秀賞の受賞対象者は、単独発表、連名発表のファースト・オーサーの学生のみとします。
- ・学生セッションの発表原稿は、会員の種別を問わず2頁とします。

詳しくは、表彰細則 (<http://www.jams-web.jp/download/jams-hyoushouaisoku.pdf>) を参照ください。

■研究発表に関する細則について

当学会では、研究発表大会をスムーズに運営するために、口頭発表に関して「研究発表細則」(学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/download/jams-kenkyuuhappyou.pdf>) に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前にご確認ください。なお、この細則は、大会委員会および大会実行委員会により運用されます。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

新年度を迎えるにあたって(会長就任のあいさつ)

日本経営システム学会 第21期会長 椎原 正次

会員みなさま、平素は当学会の活動にご参加ならびにご支援をいただきましてありがとうございます。昨年春の総会で会長に就任しました大阪工業大学の椎原です。長らく続いているコロナ禍の影響で、研究活動のみならず、教育活動や日常業務に不自由をお感じのことと思います。このJAMS NEWSにおいて案内の通り、残念ながら第68回大会もオンライン会議形式としました。大会委員会と大会実行委員会を中心に、今まで通り価値ある大会になるように努めますので、ぜひ、ご発表を検討していただければと思います。

さて、この1年、理事会、各種委員会、事務局とともに学会運営にあたって参りました。新年度を迎えるにあたって、改めて総会で話しさせていただきました2点に注力していくつもりです。ひとつめですが、当学会の最も重要な役割は、研究の進展とその成果を公表するためのよりよい機会・場を会員みなさまに提供することだと考えています。研究成果を口頭発表し議論していただく大会、レフェリーによる審査を通過した論文からなる学会誌の発行、さらに、特に優れた業績を顕彰するための表彰制度です。これらの事業を、円滑に推進するとともにより充実させていくことが最も重要だと考えています。もちろん、研究活動を支えるための支部活動・研究部会活動も含まれています。研究の対象領域が広く学会設立当初から「文理融合」を提唱していた学会として、価値ある場を創造していきたいと思っております。

ふたつ目は、山下前会長が提唱されておりましたシンプルな学会運営の継続です。当学会は歴代の会長の下で、規定類の整備を進めてまいりました。これにより、学会の運営がより分かり易くなったと理解しています。そして、シンプルな学会運営を推進することで、学会本来の役割をさらに明快に果たせるようになることを確信しています。

最後になりましたが、会員みなさまの今後ますますの研究のご発展を祈念するとともに、引き続き当学会の活動にご参加、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

第67回全国研究発表大会の報告

大会実行委員長 永松 陽明

第67回全国研究発表大会は、第66回大会に続きZoomによるオンライン開催となりました。開催日は11月27日(土)、28日(日)の二日間で、Zoomの運営は主催校横浜市立大学 八景キャンパスで行いました。

統一論題は「地域共創と経営システム」とし、89件の研究発表(統一論題4件、一般研究部会2件、一般27件、学生研究部会1件、学生55件)がありました。研究発表では各発表会場(Zoomルーム)には多くの会員が参加され、Zoom上での活発な議論が行われました。

会長の椎原先生をはじめ理事の先生方、大会実行委員の先生方、発表者・司会者の皆様、多くの会員の皆様の多大なご協力を賜り、トラブルなく開催することができ、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

学生研究発表優秀賞について

表彰委員長 川中 孝章

第67回全国研究発表大会(主催校:横浜市立大学 八景キャンパス)終了後、表彰委員会において、厳正かつ慎重に受賞候補者を選考いたしました。その後、理事会の審議を経て下記9名が学生研究発表優秀賞の受賞者に決定しましたので報告いたします。

「CSR 状況別統合評価モデルに基づく ESG 戦略 ―包絡分析法による CSR 活動計画―」

相良 勇樹 (青山学院大学)

「レイティング手法に基づく商品の人気度推定を用いた機械学習による弁当の需要予測」

太田 和希 (神奈川大学)

「潜在的イノベーター推定のためのイノベータースコアとナイーブベイズモデルの活用」

岩田 遼 (青山学院大学)

「対照群のデータを考慮した transformed outcome method によるコンプライアターの予測とその評価に関する研究」

夏堀 雄太 (上智大学)

「動画サムネイルを題材とした東アジア地域の言語的特徴に関する一考察」

坂田 直樹 (日本大学)

「有価証券報告書をもとにした日本企業の「知の探索」に関する一考察」

梶 祥太郎 (日本大学)

「多国籍企業における子会社 R&D パフォーマンスに関する研究の課題」

古沢 正明 (東北大学)

「大学の研究成果と地域共創拠点の形成に関する考察」

芹澤 覚子 (山口大学)

「SDGs 宣伝は消費者の倫理的購買行動を促せるか ―広報戦略と合理的購買要素を考慮した購買意思決定統合モデルの構築―」

鄭 顯熙 (早稲田大学)

2021 年度第 3 回理事会のまとめ

I. 開催日時：2021 年 11 月 27 日(土) 10:30~12:00

II. 開催場所：オンライン (Zoom) 形式開催

III. 出席者：椎原正次、金子勝一、石田修一、今井正文、上西啓介、川中孝章、佐々木桐子、鄭 年皓、長野寛之、林 誠、柗 紫乃、柳田義継、稲永健太郎、大野高裕、奥井秀樹、近藤高司、今野 勤、佐藤 修、島田裕次、谷崎隆士、東海詩帆、永松陽明、成川忠之、西口宏美、深澤琢也、堀江育也、松岡公二、水上祐治、藪内賢之、山下洋史 監事) 塩出省吾、松丸正延 記録者：成川忠之(敬称略)

IV. 審議事項

1. 2021 年度第 2 回議事録の確認(柳田)：特に異議なく承認された。

2. 会員の入退会について(柳田)：特に異議なく承認された。

3. 第 67 回全国研究発表大会の準備状況について(永松)：11 月 27(土)~28(日)にオンラインで開催される。基調講演は株式会社ディーシーシー 代表取締役 辻本 佳生 氏による「地域共創とブランド育成におけるデザインの役割」である旨の説明がなされ承認された。実行委員長を担当している横浜市立大学の永松理事より、司会者の協力にお礼が述べられた。

4. 第 68 回全国研究発表大会について(永松)：千葉商科大学商経学部櫻井聡先生(実行委員長)、サービス創造学部仲野友樹先生(副委員長)によりご準備いただく旨の説明がなされた。開催形式は、対面を予定し、6 号館 7 号館の計 12 教室を確保し、懇親会も予約している。椎原会長より、第 68 回大会は 5 月開催であり不確定要素が多いので、会員への案内時に現時点では対面で予定をしているが、オンラインに切り替える可能性がある旨を記述することが要請された。また、平常に戻った場合の大会の運営であるが、完全対面にするのか一部遠隔を導入するのかを検討する必要がある。遠隔を一部導入すると大会に参加しやすい反面、大会実行委員会の負担になると想定されるので、他学会の動向も見つつ大会実行委員会でご検討頂きたいとの依頼があり、永松大会副委員長より検討する旨の回答がなされた。加えて、第 69 回釧路公立大学 曾我寛人先生を中心にご準備を進めていただいている旨、説明がなされた。今井広報委員長より日程の HP 公開の可否について質問があり、永松大会副委員長より問題ないとの回答がなされた。なお、第 68 回大会および第 69 回大会の開催について審議する事項が発生した場合は、電子メールによる審議が承認された。

5. その他：特になし。

V. 報告事項

1. ニューノーマル研究会設置について(椎原)：大阪大学の三森八重子先生より申請のあったニューノーマル研究会については、前回の理事会で条件が整えば設置することとなっていた。条件を満たしたことが確認できたので会長と研究委員長とで協議の上、9 月 16 日付で承認したことが報告された。

2. 横幹連合役員の推薦について(椎原)：横幹連合から来期役員の推薦依頼があった。当学会からは、現在、理事として板倉先生、代議員として板倉先生と川中先生が横幹連合に参画している。横幹連合の規定で理事の任期は 2 年で継続は 2 期までとなっているので、板倉先生は継続できない。そこで、代議員だけではなく連合で活躍されている川中先生を理事として推薦したことが報告された。

3. 他学会への協賛について(鄭)：鄭渉外委員長より説明がなされた。
4. 学会誌 Vol.38 No2 の表紙の誤植について(林)：学会誌 Vol.38 No2 の表紙の誤植について、林理事より説明がなされた。現在までの対応策および再発防止措置について説明があり、了承された。訂正シールを次回の学会誌送付時に同封することになった。
5. その他
- ①金子副会長より記念誌の進捗状況について報告があった。次号の学会誌と一緒に送付する予定であるが、原稿1通入稿待ちであるとのことであった。
 - ②今井広報委員長より全国研究発表大会の案内を2月に予定しており、原稿依頼について説明があった。
 - ③終組織委員長より各支部の名簿の情報収集についてご協力頂いた旨、お礼が述べられた。
 - ④椎原会長より今井広報委員長に、学会のZoomアカウントを作るためにメールアドレスを用意できるかとの質問があり、可能であることが回答された。

経営モデル研究部会のお知らせ

開催日時：2022年3月12日(土) 15:00-17:00
発表予定者：(1)「映像配信授業の学習効果に関する学生の意識調査：理系学生と文系学生の意識の違いに関する一考察」 小野村 翔氏(日本大学), 水上 祐治氏(日本大学)
(2)「異分野融合を推進する学術分析システム」 本多 啓介氏(統計数理研究所), 濱田 ひろか氏(統計数理研究所)
(3)「ティックサイズ変更の効果検証」 丸山 博之氏(早稲田大学)

開催場所：ZOOMによるオンライン会議形式
<https://us02web.zoom.us/j/85003938753?pwd=allKVzIVUGpXQUhZcDNTUnNleTlPUT09>
ミーティングID: 850 0393 8753 パスコード: 334974

連絡先(幹事)：田畑智章(東海大学) Tel.03-3441-1171 E-mail:tabata@tokai-u.jp
金子勝一(山梨学院大学) Tel.055-224-1337 E-mail:kaneko.shoichi@c2c.ac.jp

ニューノーマル研究部会(知的財産分科会)のお知らせ

開催日時：2022年4月13日 水曜日 18:30～
発表予定者：「知財情報の戦略的活用～旭化成グループにおけるIPランドスケープ活動を中心に～」
中村 栄(旭化成(株) 知財インテリジェンス室 シニアフェロー)

開催場所：ZOOMによるオンライン会議形式

講演内容：企業の事業活動を優位に展開していくために知財情報の戦略的有効活用が求められている。本講演では旭化成グループ内における攻めと守りの戦略的情報の活用について紹介する。特に、最近業界で話題のIPランドスケープ(IPL)活動の社内での取り組み(導入、展開、定着)を紹介する。知財情報を中心とした解析を通して経営層に経営・事業戦略に関するインサイトを与える同活動をどのように経営層に広めていったのかのプロセス、当社IPLの3つの目的(現業強化、新事業創出、M&Aに関する貢献)それぞれにおけるIPLの活用事例に触れながら、旭化成グループにおける戦略的なIPLの遂行について紹介したい。また、昨今のコロナ禍、サステナビリティ(カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーなど)貢献が求められる環境の中、素材産業は他社との共創含めてビジネスポートフォリオの転換が必至となる。こういった取り組みの中でのIPLの貢献の今後についても紹介する。

参加方法：以下のURLから出席可否の登録をお願いしております。
<https://forms.gle/CU9G5WBvauW7c1ae6>
参加登録者には後ほどZOOM招待状をお送りします。
※ご不明な点がございましたらご連絡ください。

連絡先(幹事)：三森八重子・大阪大学招聘教授 dt4y-mtmr@asahi-net.or.jp

ヒューマンリソース（HR）研究部会のお知らせ

開催日時：2022年5月14日（土） 15:00-17:00

発表予定者：調整中

開催場所：ZOOMによるオンライン会議形式

連絡先（幹事）：金子勝一（山梨学院大学） Tel.055-224-1337 E-mail:kaneko.shoichi@c2c.ac.jp

入会者リスト

(2021. 8. 25～2021. 11. 24)

1. 正会員入会希望者

氏名	所属	氏名	所属
一藤 裕	長崎大学	今橋 裕	松山東雲短期大学
吉田 伸生	グリーンライン中京	稲生 正夫	地域科学研究所
藤井 亨	北見工業大学	清水 良太郎	ZOZO NEXT
上條 浩一	東京国際工科専門職大学	山蔭 純子	早稲田大学
加藤 浩	日本大学	坂倉 孝雄	大手前大学
加藤 暁子	日本大学	青木 駿介	電通サイエンスジャム
藤崎 実	東京工科大学	松野 思迪	早稲田大学

2. 学生会員から正会員へ種別変更

氏名	所属
武野 泰彦	山口大学大学院

3. 学生会員入会希望者

氏名	所属	氏名	所属
石井 壱磨	日本大学	梅本 将弥	東洋大学
オウイチン	上智大学大学院	森田 暖己	東洋大学
グェンタンディン	愛知工業大学大学院	渡邊 菜月	東洋大学
呂 陽	関西大学	西島 夕羽	東洋大学
天野 航河	日本大学	青野 空	東洋大学
助川 拓哉	日本大学	夏堀 雄太	上智大学大学院
島田 典季	日本大学	大澤 圭介	東海大学大学院
ニヤマースンデリヤ	千葉工業大学	ジン コウイ	東海大学大学院
城前信太郎	東北大学大学院	倉地 宏典	上智大学大学院
小林 優介	上智大学大学院	古沢 正明	東北大学大学院
川波 嵩	東京都市大学	若杉 祥吾	日本大学
鄭 顯熙	早稲田大学大学院	白濱 心	日本大学
中澤 貴廣	東洋大学	和気 亮太郎	大手前大学
中野絵梨子	東洋大学	田中 涼麻	日本大学
亀山 知優	東洋大学	水谷 仁	東北大学大学院
内野 千聡	東洋大学	梶 祥太郎	日本大学
圖子 和希	東洋大学	相良 勇樹	青山学院大学大学院
富田 瑞萌	東洋大学	山本 真衣子	早稲田大学大学院
岡崎 栞	東洋大学	森下 格	大手前大学
市川 拓実	東洋大学	劉 建	愛知工業大学大学院
松岡 真加	東洋大学	根本 康子	立命館大学大学院
林 蒼映	東洋大学		

日本経営システム学会 研究発表申込書

2022年度 第68回全国研究発表大会

発表種類 (研究、部会) (発表種類のいずれかを○でお囲み下さい)

発表セッション区分 (一般セッション、学生セッション) (区分のいずれかを○でお囲み下さい)

口頭発表者会員種別 (正会員、学生会員) (会員種別のいずれかを○でお囲み下さい)

会員連絡先

会 員 名			
所 属			
住所 (勤務先・自宅)	〒		
連 絡 先	TEL	FAX	E-mail

論題および発表者

論 題		
ふりがな 発表者氏名 (所属)	1. ()	2. ()
当日の口頭発表者には*を付す	3. ()	4. ()
研 究 部 会 名 (研究部会発表の場合)		代表者名: ()

発表要旨 (200字以内・ワープロプリント貼付可)

キーワード (必ず記入)					

注: 1) 大会プログラムは、この申込書のキーワードおよび発表要旨により編成いたします。

2) プログラム、論文集目次の論題および口頭発表者・連絡者は申込書の記載どおりに掲載いたしますので、明確に楷書にてご記入下さい。(ワープロプリント貼付可)

3) 論文集原稿締切日までに間に合わない場合は、プログラムに掲載され、発表時間も確保されておりますが発表取り消しとしますので、ご了承ください



日本経営システム学会

住所 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-20-3 パラードハイム 703
 TEL03-3371-5324・FAX03-3371-5185
 E-Mail: keieisys@jams-web.jp